

# I. 介護予防・日常生活支援総合事業

【資料2-1】

【R4 年度目標】 1.住民が参加しやすい通いの場を増やすため、実態把握訪問により、現状把握を行う。  
2.通所サービスCモデル事業の実施箇所数を増やす。

## 1. 令和3年度の取組

### <みんなで笑おう◎元気アップ教室>

- ・身近な集いの場として令和3年度より「転倒予防教室」から「みんなで笑おう◎元気アップ教室」へと名称を変更し、介護予防を目的に「運動機能向上プログラム」、「脳活性プログラム」実施。
- ・令和3年度は、感染症対策を行い事業休止せず実施したが、地域から休止や中止の要請があり、計画の回数を実施できなかった。

### ■みんなで笑おう◎元気アップ教室実施件数

令和3年度	村上	荒川	神林	朝日	山北
実施箇所 (町内・集落数)	41 箇所 (111)	10 箇所 (31)	25 箇所 (40)	17 箇所 (46)	9 箇所 (46)
実施回数	527 回	39 回	139 回	75 回	57 回
参加延人数	4099 人	454 人	1196 人	667 人	356 人

### <元気応援通所サービスC>

- ・令和3年度県のモデル事業として実施した「元気応援あさひ教室」は、どの参加者にも日常生活上の変化（良い結果）が出ている。この良い状態を維持できるかが重要である。

### ■元気応援通所サービスC実施件数

令和3年度	村上	荒川	神林	朝日	山北
実施回数	20 回	25 回	20 回	24 回	12 回
参加実人数	9 人	9 人	6 人	10 人	9 人
参加延人数	76 人	171 人	101 人	103 人	59 人

## 2. 令和4年度の取組

### (1) 住民が参加しやすい通いの場を増やすための取組

- ・新型コロナウイルス感染症の流行下において、高齢者の外出自粛等が長期化することに伴い、閉じこもりや交流機会の減少により、心身機能の低下による健康への影響や地域のつながりの希薄化が懸念されている。県の補助事業を活用し、各地区スポーツクラブと連携しながら、高齢者の健康・生活状況を把握し、通いの場の紹介や自宅でできる運動指導を行い、新規開催場所や新規参加者の掘り起こしを行っていく。

### (2) 元気応援通所サービスCモデル事業の実施箇所数を増やす取組

- ・令和3年度県モデル事業として実施した「元気応援あさひ教室」は対象者数を増やし実施する。
- ・元気応援むらかみ教室の委託先を変更し、モデル事業に習った形で事業実施する。
- ・住民や介護事業所に対してモデル事業での取り組みを市報や研修会、講演会等で紹介し、生活不活発による高齢者の虚弱の予防やセルフケア、自立支援の考えを啓発していく。